

安達太良山における地磁気全磁力変化*

Variation of Geomagnetic Total Intensity at Adatara Volcano

気象庁地磁気観測所
気象庁仙台管区气象台

Kakioka Magnetic Observatory, JMA
Sendai District Meteorological Observatory, JMA

気象庁では、安達太良山沼ノ平付近において1997年7月から全磁力繰り返し観測を実施している。さらに1998年6月からは全磁力連続観測も実施している¹⁾。

第1図に安達太良山沼ノ平火口付近における全磁力繰り返し観測点及び全磁力連続観測点の配置を示す。No. 1～No. 17が繰り返し観測点、C2、N、N2が連続観測点である。

第2図に1997年から2005年10月までの繰り返し観測結果を示す。2004年9月と2005年10月の観測結果を比較すると、火口の北側に位置する観測点(5, 6, 7, 8, 15)ではわずかに減少、南側に位置する観測点(2, 16)ではわずかに増加の傾向が見られる。このことはわずかな帯磁(冷却)傾向を意味するが、変化量がわずかなのでダイポールの位置や大きさは正確には求められない。

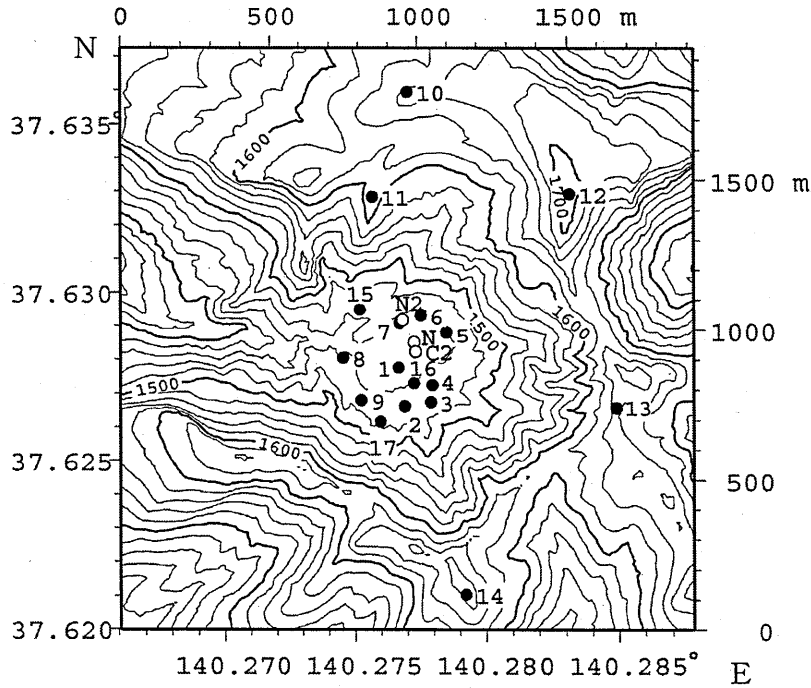
第3図に1998年から2005年10月までの参照点(沼ノ平火口西側約3km)を基準とした連続観測の結果を示す。参照点復旧後の結果からは、火口北部のN2は2001年から減少傾向にあったのが、ほぼ横ばいとなった。Nは2002年以降ほぼ横ばいであったが、わずかな減少傾向に変わった。この傾向は繰り返し観測結果と調和的で、わずかな帯磁(冷却)傾向が継続しているといえる。2005年6月末から9月中旬まで参照点の測器不調のため欠測となった。また2005年7月中旬以降C2もデータが正常に計測できなくなった。

なお、火山活動の沈静化にともない2005年10月をもって地磁気全磁力の連続観測を休止した。

参 考 文 献

- 1) 気象研究所, 地磁気観測所, 気象庁火山課 (1999) : 安達太良山・沼ノ平火口の地磁気変化, 火山噴火予知連絡会会報, 72, 64 - 67.

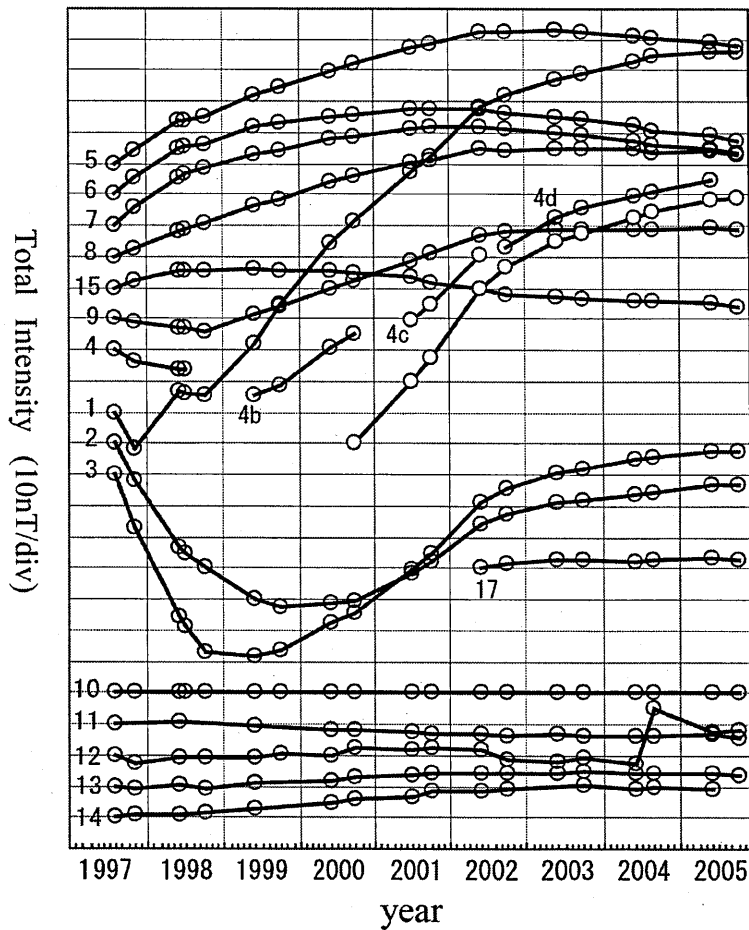
* Received 10 March, 2006



第1図 全磁力繰り返し観測点 (No.1-17) と全磁力連続観測点 (C2, N, N2) の配置図。

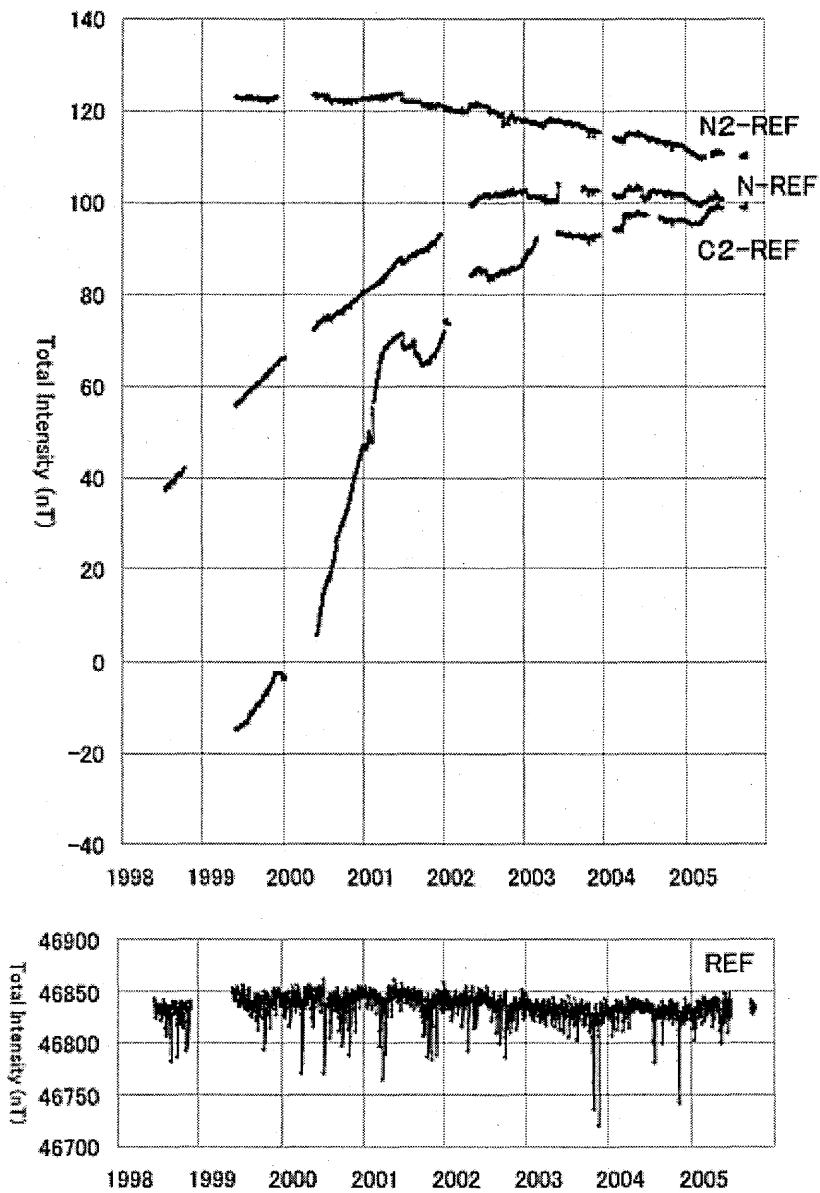
Fig.1 Locations of repeat (No. 1-17) and continuous (C2, N, N2) stations of the geomagnetic total intensity.

ADATARA
(No. 10基準)



第2図 全磁力繰り返し観測によって得られた、No. 10を基準とした各観測点の変化。

Fig.2 Differences of the geomagnetic total intensity at each repeat station from that at station No. 10.



第3図 参照点を基準とした連続観測点の全磁力変化（上図）と参照点の全磁力変化（下図）。

Fig.3 Differences of the geomagnetic total intensity at each continuous station form that at the reference station (top) and the total intensity variation at the reference station (bottom).